

6 病院事業特別会計

(1) 業務実績(審査資料 94～97、108頁参照)

入院部門の病床数は311床(一般病床280床、結核病床25床、感染症病床6床)であり、外来部門の開院日数も244日と前年度と同じである。

年間延患者数は18万9,957人で前年度に比べ2,119人(1.1%)減少している。この内訳は、外来患者数は10万7,821人で前年度に比べ473人(0.4%)減少しており、入院患者数も8万2,136人で前年度に比べ1,646人(2.0%)減少している。また、一日当たりの平均患者数は、外来が441.9人と前年度に比べ1.9人(0.4%)減少し、入院も225.0人と前年度に比べ4.5人(2.0%)減少している。この患者数の動向を診療科別にみると、外来では主に産婦人科で増加し、整形外科で減少している。入院では主に外科で増加し、整形外科で減少している。

一般病床利用率は79.5%で、前年度より1.8ポイント低下しており、平均在院日数は15.3日で、前年度より0.2日短縮している。

建設改良事業では、受変電設備及び非常用発電設備の更新工事に着手したほか、外科用内視鏡システムの更新を進めるなど、医療の質の確保に努めるとともに、作業効率の向上を図っている。

なお、本事業では、新金沢市立病院経営計画(計画期間：平成29～32年度)に基づき、経営の効率化と医療の質の向上、医療機関・介護・福祉施設、行政、住民との連携強化が重要であり、平成30年度は、入院前から退院、そして在宅まで切れ目のない患者サービスを提供する入退院支援を開始し、かかりつけ医や介護施設等との一層の連携を図るなど、地域医療への貢献に努めている。

(2) 経営成績

ア 収益(審査資料 97～98、100頁参照)

経常収益は54億3,018万5千円で、前年度に比べ4,476万9千円(0.8%)減少している。

この主な内訳を前年度と比べると、患者数の減少により、入院収益で9,586万6千円(2.9%)、外来収益で3,771万7千円(2.9%)それぞれ減少している。

また、結核病院の運営に要する補助金等の増加により、医業外収益が9,226万3千円(19.0%)増加している。

なお、患者一人一日当たりの医業収益は、外来では11,540円と前年度に比べ297円(2.5%)、入院では39,414円と前年度に比べ370円(0.9%)、それぞれ減少している。

イ 費用(審査資料 97～99頁参照)

経常費用は56億2,601万1千円で、前年度に比べ5,692万2千円(1.0%)減少している。

この主な内訳を前年度と比べると、医業費用では、年間延患者数の減少による薬品費等の減少や、ベンチマークシステムの導入による診療材料費の削減等により、材料費が1億760万8千円(11.6%)減少する一方、医療情報システム等の減価償却費が2,995万4千円(9.2%)、人事院勧告等に伴い給与費が2,575万2千円(0.8%)、増加している。

また、医業外費用では、その他雑損失が592万円(4.0%)減少している。

ウ 損益(審査資料 97、99頁参照)

経常収支では、前年度の経常損失2億797万9千円から1,215万3千円(5.8%)減少し、1億9,582万6千円の経常損失となった。これに、企業債の元金償還金繰入額の過年度分の収益化による特別利益267万9千円を加えた結果、1億9,314万7千円の当年度純損失となり、前年度の純損失から244万7千円(1.3%)増加している。なお、当年度未処理欠損金は、29億6,076万4千円となっている。

エ 収益性の分析(審査資料 100頁参照)

医業活動の収益性を表す医業収益対医業費用比率は89.2%(前年度比1.7ポイント減)と、理想比率(100%以上)を下回っている。また、医業外収益の一般会計補助金等や医業外費用の企業債利息等を含めた総収益対総費用比率についても96.6%(同比同率で推移)と理想比率(100%以上)を下回っている。

(3) 財政状態

ア 資産、負債及び資本

(イ) 資産(審査資料 101～103頁参照)

資産は92億6,173万3千円で、前年度に比べ9,222万1千円(1.0%)減少している。この内訳を前年度と比べると、医療情報システムの更新等により固定資産が990万2千円(0.2%)増加し、現金・預金等の流動資産が1億212万3千円(2.5%)減少している。

(ロ) 負債及び資本(審査資料 101、103～104頁参照)

負債は47億4,070万9千円で、前年度に比べ222万円(0.0%)減少している。

この内訳を前年度と比べると、固定負債(前年度比1億2,078万3千円、3.9%増)では、退職給付引当金が1億1,331万6千円(7.1%)増加し、償還期間が1年を超える企業債が746万7千円(0.5%)増加している。

流動負債(同比△1億1,967万5千円、10.6%減)では、償還期間が1年以内の企業債が7,257万6千円(16.5%)、未払金が5,150万8千円(12.3%)減少している。

また、繰延収益(同比△332万8千円、0.6%減)では長期前受金が332万8千円(0.6%)減少している。

資本は45億2,102万4千円と前年度に比べ9,000万1千円(2.0%)減少している。この内訳を前年度と比べると、資本金は一般会計出資金を組み入れたことにより1億314万6千円(1.5%)増加し、一方欠損金は、当年度純損失を加えたことにより1億9,314万7千円(7.0%)増加している。

イ 企業債(審査資料 104頁参照)

受変電設備及び非常用発電設備の更新工事等に充てるため、3億7,530万円(同比2,000万円、5.1%減)の新規借入れがあったものの、元金4億4,040万9千円(同比449万3千円、1.0%増)を償還した。その結果、本年度末の企業債残高は18億6,443万2千円と前年度より6,510万9千円(3.4%)減少している。

なお、この企業債残高の将来にわたる償還について、一般会計からの繰入れが見込まれる額(地方公共団体財政健全化法施行規則第9条に定める将来負担比率の算定に用いる数値)は12億3,238万9千円となっている。

ウ 財政状態に関する経営指標(審査資料 105頁参照)

流動比率(流動負債に対する流動資産の割合)は、396.2%(同比32.9ポイント増)と理想比率(100%以上)を上回っている。

なお、地方公共団体財政健全化法施行令第16条に定める資金不足比率の算定に用いる資金の不足額は、流動負債(企業債等を除く)の額が流動資産の額を下回っているため生じていない。

(4) キャッシュ・フローの状況(審査資料 106頁参照)

事業活動に伴う資金の増加又は減少を、業務活動、投資活動及び財務活動に区分して経営の実態をみると、業務活動では医業収入額が経費の支払額を上回り7,404万7千円の資金を生み出している。一方、建設改良費支払等の投資活動では1億6,049万円を費消し、企業債の償還などの財務活動では3,803万7千円の資金調達を行っている。

この結果、本年度末の資金残高は33億2,002万2千円となり、前年度に比べ4,840万6千円(1.4%)減少している。

(5) 一般会計からの繰入状況(審査資料 107頁参照)

一般会計からの繰入金は補助金、負担金及び出資金であり、繰入額は8億737万2千円と前年度に比べ2,228万円(2.8%)増加している。この内訳は、収益的収入に係る繰入金が5億1,456万円(前年度比5,995万9千円、13.2%増)、資本的収入に係る繰入金が2億9,281万2千円(同比△3,767万9千円、11.4%減)となっている。

収益的収入に係る繰入金では、結核病床運営不採算分が6,415万5千円(104.5%)増加し、企業債利息が351万3千円、院内保育所運営経費が270万4千円、共済追加費用の負担経費が169万5千円減少している。

(6) むすび(審査意見)

本市病院事業は、急性期病院として重要な役割を果たしているほか、感染症医療や腎透析による更生医療に加え、いわゆる人間ドックによる予防医療を実施している。

業務実績をみると、年間延患者数は、前年度と比べ外来・入院とも減少している。

建設改良事業では、外科用内視鏡システムの更新などを進めることにより、質の高い医療の提供に努めた。

収支状況については、平成30年4月の診療報酬改定において、7対1入院基本料の算定要件である入院患者数に占める重症患者数の割合が、さらに引き上げられたことなどから患者数が減少し、医業収益が減少している。なお、結核病院の運営に要する経費について実費相当額に算定方法が見直されたことで、一般会計補助金などの医業外収益は増加している。費用では、医療機器及び診療材料費等の価格交渉に当たり他病院の納入価格等を調査分析するベンチマークシステムの活用等により、医業費用が減少したものの、経常費用が経常収益を上回ったため、経常損失となっている。これに特別利益を加えた結果、総収支では1億9千万円余の純損失となっている。なお、当年度未処理欠損金は29億6千万円余に増加している。

キャッシュ・フローの状況は、事業資金の発生源である業務活動では資金を確保しており、投資活動では医療設備更新など必要な投資を続けながら、財務活動では建設投資の資金を企業債の借入れで補っている。

公的病院である市立病院は、民間病院では対応が難しい災害や結核医療などの不採算医療を担っているが、その一方で病院事業として健全経営に努めることも大変重要である。

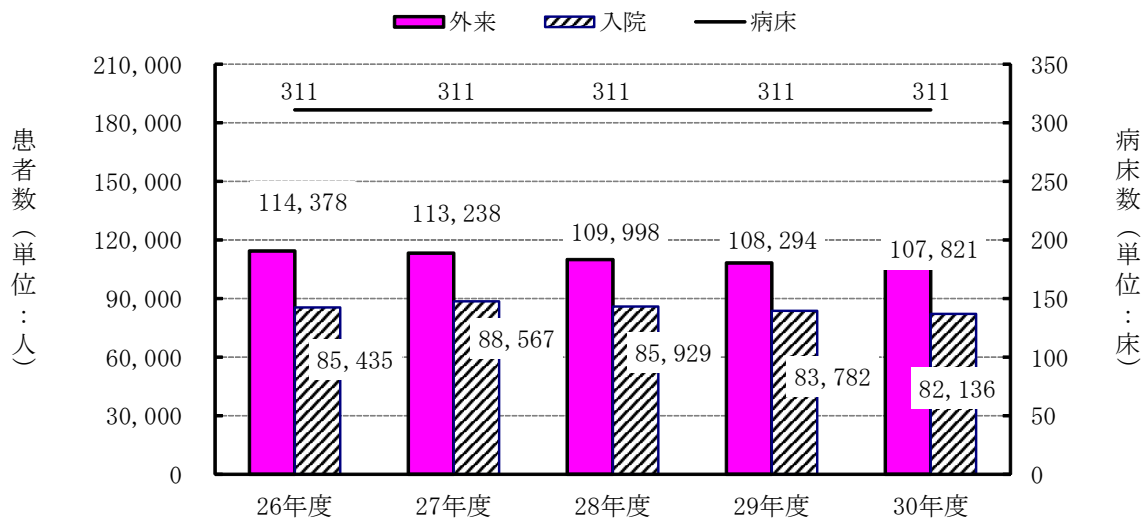
病院事業においては、今後、人口減少や少子高齢化が急速に進展し、医療環境が大きく変化することが見込まれている。このような状況のもと、病院施設の老朽化も進む中で、自治体病院としてのあり方について、検討が行われており、地域において必要な医療を適切かつ安定的に提供できる体制を確保する取組を進めていただきたい。

また、経営を取り巻く環境が年々厳しさを増す中、健全な病院経営の確立に向けた診療報酬制度や不採算医療に対する財源措置の拡充などについて、様々な機会を捉えて国への要望活動を積極的に行うとともに、累積赤字削減を進めるため、経営効率の改善に向けた取組をより一層強化し、経営の健全化が図られるよう努められたい。

(審査資料)

1 業務状況

(1) 患者数等の推移



ア 病床数

311床(一般病床280床、結核病床25床、感染症病床6床)であり、前年度と比べ増減はない。

イ 年間延患者数

前年度と比べると、患者延数で2,119人(1.1%)減少している。その内訳は、外来が473人(0.4%)、入院が1,646人(2.0%)それぞれ減少している。

ウ 一日当たりの平均患者数

外来患者が441.9人、入院患者が225.0人となっており、前年度と比べると、外来が1.9人(0.4%)、入院が4.5人(2.0%)それぞれ減少している。

(2) 診療科目別患者数の推移

【外来患者】

(単位：人)

区分	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度
内科	52,183	52,191	52,234	52,070	51,893
整形外科	14,039	13,600	12,638	12,543	11,482
眼科	9,127	8,788	8,614	8,447	8,487
産婦人科	7,949	7,832	7,293	7,423	7,901
泌尿器科	8,529	7,779	7,613	7,237	7,409
その他	22,551	23,048	21,606	20,574	20,649
総患者数	114,378	113,238	109,998	108,294	107,821

※その他は脳神経外科、耳鼻咽喉科、小児科、外科、皮膚科、麻酔科である

【入院患者】

(単位：人)

区分	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度
内科	50,200	53,579	56,087	54,460	54,804
整形外科	16,503	17,062	13,102	13,334	10,923
脳神経外科	7,800	7,084	6,877	6,167	5,826
外科	4,265	5,005	4,197	4,376	5,309
産婦人科	2,988	2,624	2,957	2,867	2,657
その他	3,679	3,213	2,709	2,578	2,617
総患者数	85,435	88,567	85,929	83,782	82,136

※その他は泌尿器科、眼科、小児科、皮膚科、耳鼻咽喉科、麻酔科である

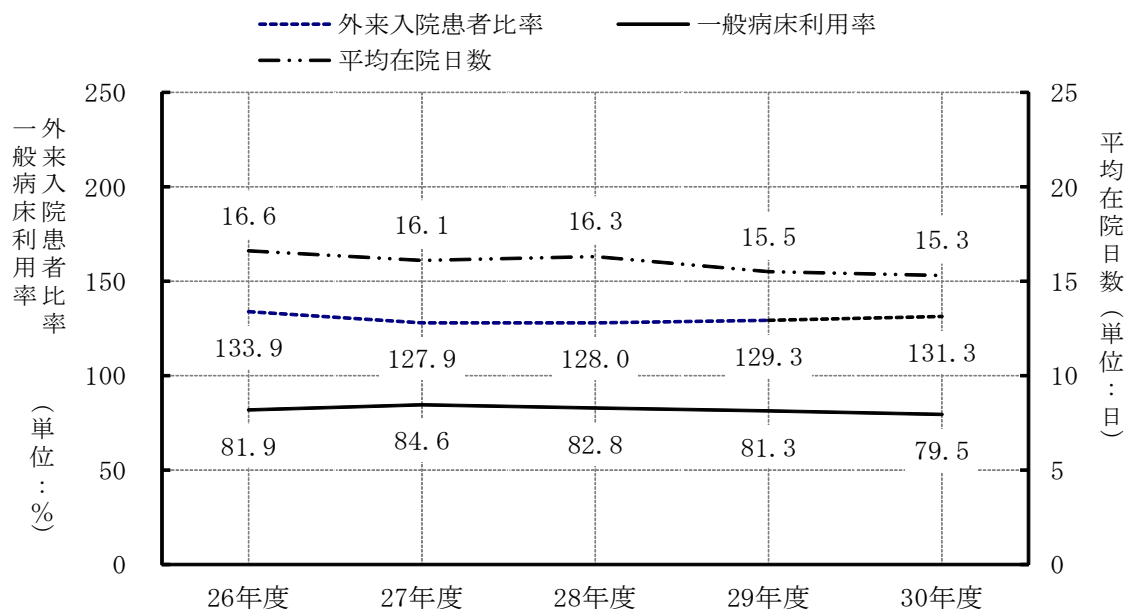
ア 外来患者

診療科目別の患者数を前年度と比べると、主に産婦人科で増加し、整形外科で減少している。

イ 入院患者

診療科目別の患者数を前年度と比べると、主に外科で増加し、整形外科で減少している。

(3) 一般病床利用率等の推移



(注) 1 一般病床利用率 = $\frac{\text{一般病床入院患者数}}{\text{一般病床数(ドック除く)} \times 365 \text{日}(\ast)} \times 100$

(※) 閏日のある年度は366日、それ以外は365日

2 外来入院患者比率 = $\frac{\text{外来患者数}}{\text{入院患者数}} \times 100$

3 平均在院日数は、一般病床における入院患者の平均在院日数である。

平均在院日数 = $\frac{\text{延べ在院患者数}}{1/2 \times (\text{新入院患者数} + \text{退院患者数})}$

4 近隣の自治体病院の平成29年度一般病床利用率平均は、82.8%である。

(7 資料(2)近隣病院比較表参照)

ア 一般病床利用率

前年度と比べると、1.8ポイント低下している。

イ 外来入院患者比率

前年度と比べると、2.0ポイント上昇している。

ウ 平均在院日数

前年度と比べると、0.2日短縮している。

(4) 新規の外来・入院実患者数の推移

区 分	単位	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度
新規外来患者	人	8,828	8,689	8,088	7,561	7,311
新規入院患者	人	4,604	4,677	4,276	4,266	4,339

前年度と比べると、新規外来患者数は250人(3.3%)減少し、新規入院患者数は73人(1.7%)増加している。

2 予算執行状況

(1) 収益的収入及び支出

(単位：千円・%)

科 目	予算額	決算額	翌年度繰越額	決算額の予算額 に対する増減 又は不用額	執行率
事業収益	5,645,279	5,449,057	-	△ 196,222	96.5
医業収益	5,049,414	4,866,347	-	△ 183,067	96.4
医業外収益	595,205	580,031	-	△ 15,174	97.5
特別利益	660	2,679	-	2,019	405.9
事業費用	5,722,417	5,639,573	-	82,844	98.6
医業費用	5,658,036	5,581,918	-	76,118	98.7
医業外費用	64,381	57,655	-	6,726	89.6

(注) 予算額及び決算額には、消費税及び地方消費税を含む。

ア 収益的収入(事業収益)

決算額の予算額に対する減少は、主に次の項目の増減による。

入院収益	△ 1億7,908万8千円
外来収益	920万8千円

イ 収益的支出(事業費用)

不用額は、主に次の項目の金額である。

経費(修繕費等)	3,250万8千円
給与費(給料等)	1,961万1千円
材料費(薬品費等)	1,812万5千円

(2) 資本的収入及び支出

(単位：千円・%)

科 目	予算額	決算額	翌年度繰越額	決算額の予算額 に対する増減 又は不用額	執行率
資本的収入(A)	879,312	682,443	-	△ 196,869	77.6
企業債	571,000	375,300	-	△ 195,700	65.7
他会計補助金	205,166	202,942	-	△ 2,224	98.9
他会計出資金	103,146	103,146	-	0	100.0
県補助金	-	1,055	-	1,055	-
資本的支出(B)	1,026,910	832,257	163,272	31,381	81.0
建設改良費	586,500	391,848	163,272	31,380	66.8
企業債償還金	440,410	440,409	-	1	100.0
差引(A)-(B)	△ 147,598	△ 149,814	-	-	-

(注) 予算額及び決算額には、消費税及び地方消費税を含む。

ア 資本的収入

決算額の予算額に対する減少は、主に次の項目の増減による。

企業債	△ 1億9,570万円
他会計補助金	△ 222万4千円
県補助金	105万5千円

イ 資本的支出

(ア) 主な建設改良事業は、次のとおりである。

施設整備事業	2億4,359万2千円
(市立病院受変電・発電設備更新工事等)	

(イ) 不用額は、主に建設改良費における工事請負費1,560万8千円である。

ウ 収入不足額の補てん

資本的収入額が資本的支出額に対し不足する額1億4,981万4千円は、次の項目の金額で補てんされている。

過年度分損益勘定留保資金	1億4,883万8千円
当年度分消費税等資本的収支調整額	97万6千円

3 経営成績

(1) 経営成績

(単位：千円・%)

科 目	30年度	29年度	増 減	
			金 額	比 率
経 常 収 益	5,430,185	5,474,954	△ 44,769	△ 0.8
医 業 収 益	4,852,875	4,989,907	△ 137,032	△ 2.7
医 業 外 収 益	577,310	485,047	92,263	19.0
経 常 費 用	5,626,011	5,682,933	△ 56,922	△ 1.0
医 業 費 用	5,442,589	5,490,679	△ 48,090	△ 0.9
医 業 外 費 用	183,422	192,254	△ 8,832	△ 4.6
経 常 損 失	195,826	207,979	△ 12,153	△ 5.8
特 別 利 益	2,679	17,279	△ 14,600	△ 84.5
当 年 度 純 損 失	193,147	190,700	2,447	1.3

ア 収 益

(ア) 医業収益の減少は、次の項目の減少による。

入院収益	△ 9,586万6千円(△ 2.9%)
外来収益	△ 3,771万7千円(△ 2.9%)
その他医業収益	△ 344万9千円(△ 0.9%)

(イ) 医業外収益の増加は、主に次の項目の増加による。

一般会計補助金	5,804万2千円(22.7%)
長期前受金戻入	2,212万8千円(12.1%)
その他医業外収益	934万7千円(25.1%)
病児保育事業収益	245万3千円(皆 増)

(ウ) 特別利益は、企業債の元金償還金繰入額の過年度分の収益化によるその他特別利益267万9千円である。

(エ) 総収益の推移は、次のとおりである。

(単位：千円)

区 分	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度
入院収益	3,278,004	3,388,170	3,298,988	3,333,212	3,237,346
外来収益	1,208,850	1,252,725	1,253,693	1,281,925	1,244,208
一般会計補助金	314,209	344,092	258,973	255,912	313,954
長期前受金戻入	147,008	146,782	152,652	182,516	204,644
その他収入	400,687	413,469	402,997	421,389	430,033
特別利益	135,629	3,792	4,515	17,279	2,679
総 収 益	5,484,387	5,549,030	5,371,818	5,492,233	5,432,864

(注) 1 診療報酬の改定状況

平成26年4月 全体 0.10%(うち医科 0.82%、薬価・材料 △0.63%)

平成28年4月 全体 0.49%(うち医科 0.56%、薬価・材料 △1.33%)

平成30年4月 全体 0.55%(うち医科 0.63%、薬価・材料 △1.74%)

2 平成26年度の特別利益は、会計基準の見直しに伴う修繕引当金の取崩し等によるものである。

平成27年度以降の特別利益は、企業債の元金償還金繰入額の過年度分を収益化したことによる、その他特別利益である。

イ 費用

(ア) 医業費用の減少は、主に次の項目の増減による。

材料費(薬品費等)	△ 1億 760万8千円(△ 11.6%)
経費(修繕費等)	648万1千円(0.6%)
給与費	2,575万2千円(0.8%)
減価償却費(建物減価償却費等)	2,995万4千円(9.2%)

なお、医業費用における材料費の推移は、次のとおりである。

(単位：千円・%)

区 分	30年度	29年度	増 減	
			金 額	比 率
薬 品 費	473,385	557,475	△ 84,090	△ 15.1
治療用薬品	372,281	462,214	△ 89,933	△ 19.5
検査用薬品	64,627	58,836	5,791	9.8
その他の薬品	36,477	36,425	52	0.1
診療材料費	331,596	355,433	△ 23,837	△ 6.7
給食材料費	8,201	8,040	161	2.0
医療消耗備品費	4,153	3,995	158	4.0
合 計	817,335	924,943	△ 107,608	△ 11.6

(イ) 医業外費用の減少は、主に次の項目の増減による。

その他雑損失	△ 592万円 (△ 4.0%)
支払利息及び企業債取扱諸費	△ 524万7千円(△ 22.4%)
病児保育事業費	316万1千円(皆 増)

(ウ) 総費用の性質別経費の推移は、次のとおりである。

(単位：千円)

区 分	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度
人 件 費 (退職給付費除く)	2,890,345 (2,771,236)	3,057,436 (2,883,685)	3,080,830 (2,961,808)	3,199,350 (3,062,995)	3,227,748 (3,049,504)
経 費	954,781	944,357	959,422	1,007,198	1,013,679
材 料 費	913,809	933,734	845,133	924,943	817,335
減 価 償 却 費	365,558	301,080	330,026	327,294	357,248
支 払 利 息 等	40,292	34,676	29,047	23,438	18,191
長期前払消費税償却	12,721	13,761	16,144	16,140	17,981
そ の 他 費 用	189,181	178,623	172,897	184,570	173,829
特 別 損 失	1,546,616	-	-	-	-
総 費 用	6,913,303	5,463,667	5,433,499	5,682,933	5,626,011
(参考)院外処方箋 発行率(%)	95.7	96.2	96.9	97.3	97.3

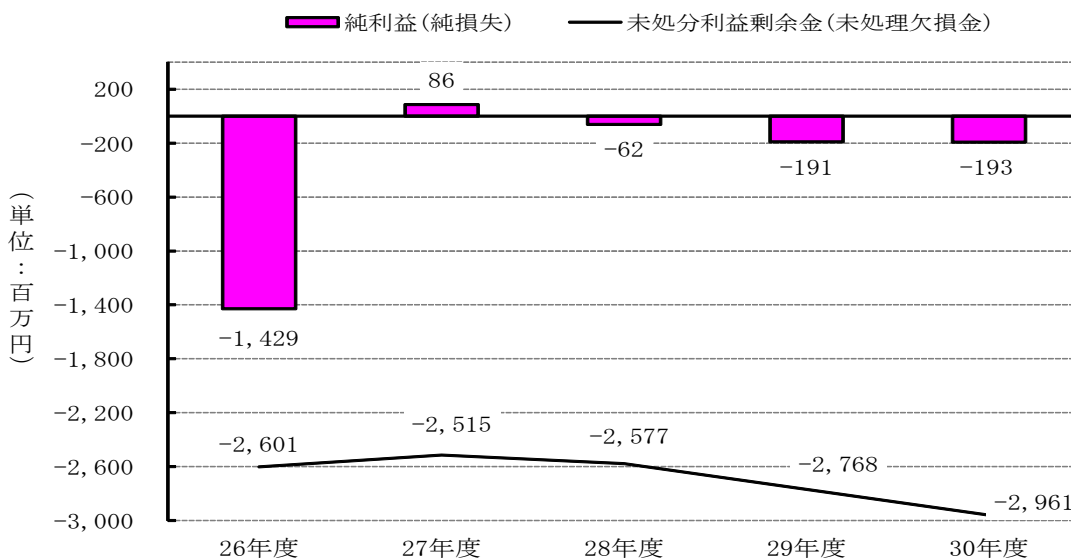
(注) 平成26年度の特別損失は、会計基準の見直しに伴う退職給付引当金の引当不足額の一括計上等によるものである。

ウ 損 益

(ア) 経常損失の減少は、入院収益等の経常収益が減少したものの、それ以上に材料費等の経常費用が減少したことによる。

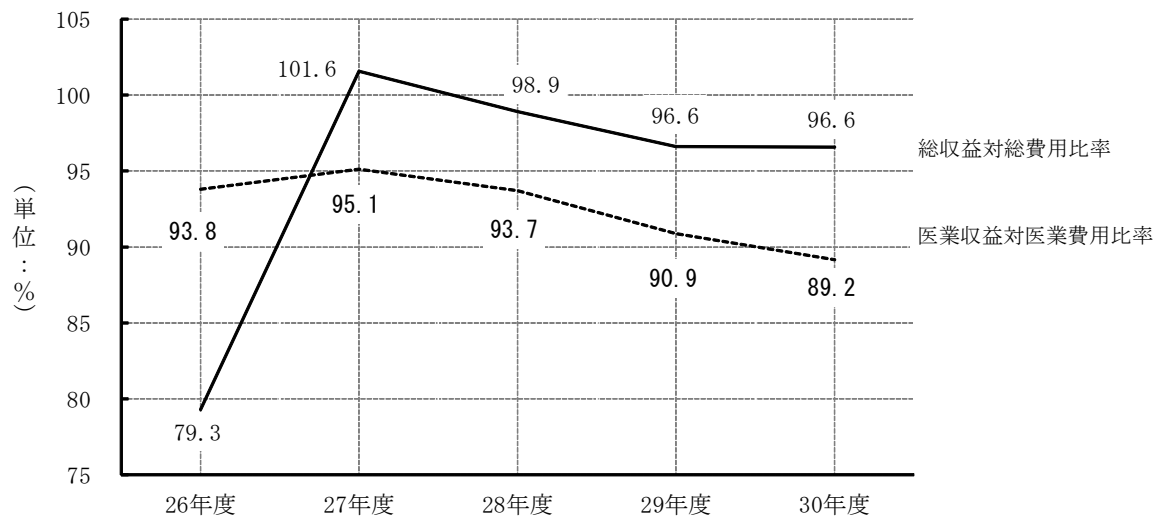
(イ) 当年度純損失は、経常損失1億9,582万6千円に特別利益267万9千円を加えたことにより1億9,314万7千円となっている。

(ウ) 当年度純利益(純損失)及び当年度未処分利益剰余金(未処理欠損金)の推移は、次のとおりである。



(注) 平成26年度の未処理欠損金の額は、前年度繰越欠損金に当年度純損失を加え、その他未処分利益剰余金変動額(202百万円)で補てんした額である。

(2) 収益率の推移



..... (巻末付表1参照)

- (注) 1 総収益対総費用比率は、100%以上大きいほど良好である。
 2 医業収益対医業費用比率は、100%以上大きいほど良好である。

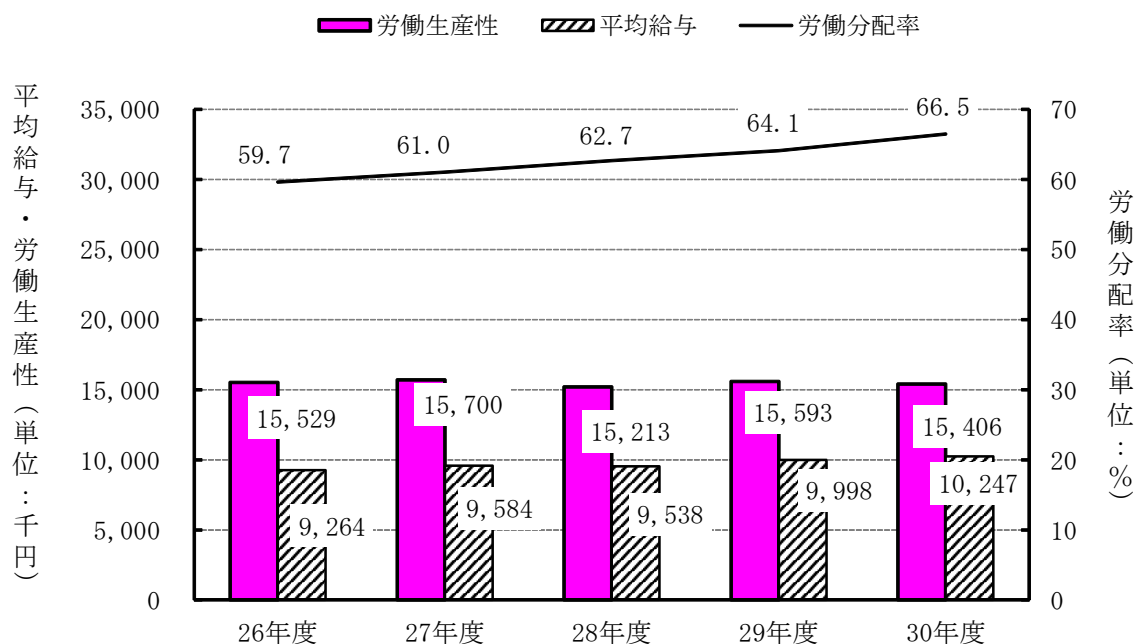
(3) 患者一人一日当たり医業収支の推移

(単位：円)

区分	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	備考
医業収益	24,248	24,817	25,079	25,979	25,547	$\frac{\text{医業収益}}{\text{年間外来・入院患者数}}$
外来収益	10,569	11,063	11,397	11,837	11,540	$\frac{\text{外来収益}}{\text{年間外来患者数}}$
入院収益	38,368	38,255	38,392	39,784	39,414	$\frac{\text{入院収益}}{\text{年間入院患者数}}$
医業費用	25,839	26,090	26,765	28,586	28,652	$\frac{\text{医業費用}}{\text{年間外来・入院患者数}}$
医業損失	1,591	1,273	1,686	2,607	3,105	(患者一人一日当たり) 医業収益－医業費用

ア 患者一人一日当たりの医業収支を前年度と比べると、医業収益が432円減少し、医業費用が66円増加したため、医業損失は498円増加している。

(4) 労働生産性の推移



(注) 1 労働生産性 = $\frac{\text{業 業 収 益}}{\text{損益勘定所属職員数}}$

2 平均給与 = $\frac{\text{人 件 費}}{\text{損益勘定所属職員数}}$

3 労働分配率 = $\frac{\text{人 件 費}}{\text{業 業 収 益}} \times 100$

4 財政状態

(1) 財政状態

(単位：千円・%)

科 目	30年度	29年度	増 減	
			金 額	比 率
資 産	9,261,733	9,353,954	△ 92,221	△ 1.0
固 定 資 産	5,257,143	5,247,241	9,902	0.2
流 動 資 産	4,004,590	4,106,713	△ 102,123	△ 2.5
資 産 合 計	9,261,733	9,353,954	△ 92,221	△ 1.0
負 債	4,740,709	4,742,929	△ 2,220	△ 0.0
固 定 負 債	3,197,062	3,076,279	120,783	3.9
流 動 負 債	1,010,752	1,130,427	△ 119,675	△ 10.6
繰 延 収 益	532,895	536,223	△ 3,328	△ 0.6
資 本	4,521,024	4,611,025	△ 90,001	△ 2.0
資 本 金	6,917,633	6,814,487	103,146	1.5
剰 余 金	△ 2,396,609	△ 2,203,462	△ 193,147	△ 8.8
負 債 資 本 合 計	9,261,733	9,353,954	△ 92,221	△ 1.0

ア 資産

(ア) 固定資産の増加は、主に次の項目の増減による。

建設仮勘定		1億7,274万9千円(2,720.5%)
(市立病院受変電・発電設備更新工事等)		
建物	△	3,807万8千円(△ 1.5%)
その他無形固定資産	△	3,916万8千円(△ 9.5%)
(医療情報システム等)		
器械備品	△	8,352万7千円(△ 11.5%)

なお、有形固定資産減価償却累計額は77億6,440万4千円であり、前年度と比べると1億5,273万6千円増加している。

(イ) 流動資産の減少は、次の項目の増減による。

未収金	△	5,493万6千円(△ 7.7%)
現金・預金	△	4,840万6千円(△ 1.4%)
貯蔵品		121万9千円(5.8%)

なお、未収金の内訳は、次のとおりである。

(単位：千円・%)

科 目	30年度	29年度	増 減	
			金 額	比 率
入院収益	471,721	526,782	△ 55,061	△ 10.5
外来収益	186,439	189,998	△ 3,559	△ 1.9
その他収益	48,447	45,759	2,688	5.9
未収金合計	706,607	762,539	△ 55,932	△ 7.3

- (注) 1 未収金は年度末の数値であり、消費税及び地方消費税を含む。
 2 未収金のうち、回収することが困難と見込まれる額については、貸倒引当金を別に計上する。

また、貸倒引当金の推移は、次のとおりである。

(単位：千円)

区 分	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度
貸倒引当金	36,985	43,742	45,398	45,105	44,109

なお、不納欠損処分状況は、次のとおりである。

(単位：件・千円・%)

根 拠	区 分		30年度	29年度	増 減	
					件数・金額	比 率
地 方 自 治 法 第 2 3 6 条 第 1 項 (5年の消滅時効)	入 院 収 益	件数	172	320	△ 148	△ 46.3
		金額	4,475	8,298	△ 3,823	△ 46.1
	外 来 収 益	件数	342	396	△ 54	△ 13.6
		金額	1,772	2,486	△ 714	△ 28.7
	そ の 他 収 益	件数	215	212	3	1.4
		金額	857	728	129	17.7
合 計		件数	729	928	△ 199	△ 21.4
		金額	7,104	11,512	△ 4,408	△ 38.3

イ 負 債

(ア) 固定負債の増加は、次の項目の増加による。

退職給付引当金	1億1,331万6千円(7.1%)
企業債(償還期間が1年を超えるもの)	746万7千円(0.5%)

なお、引当金の推移は、次のとおりである。

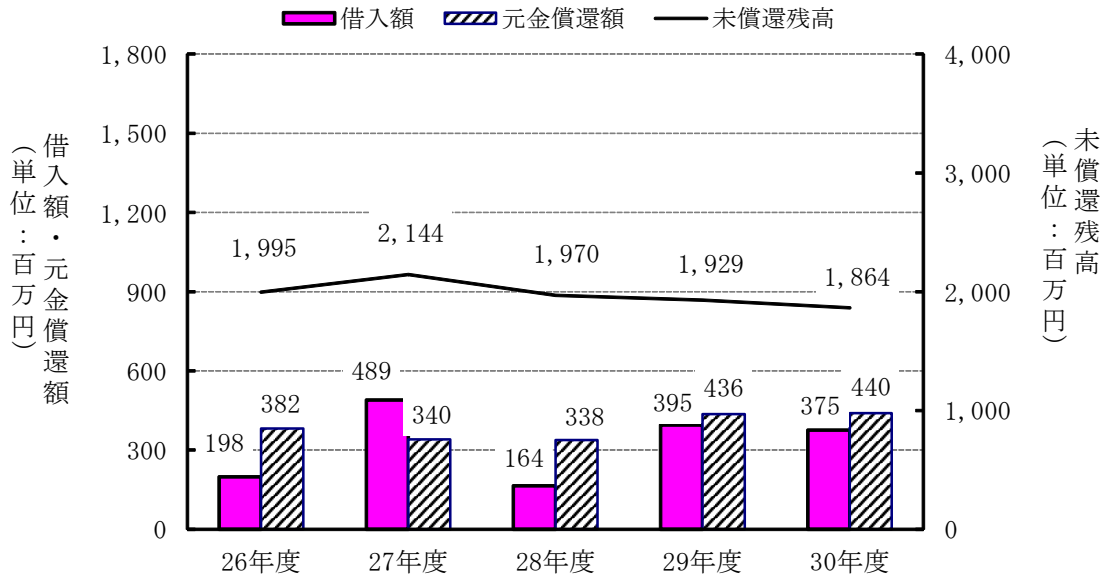
(単位：千円)

区 分	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度
退職給付引当金	1,391,529	1,531,984	1,528,211	1,587,147	1,700,463

(イ) 流動負債の減少は、主に次の項目の増減による。

企業債(償還期間が1年以内のもの)	△ 7,257万6千円(△ 16.5%)
未払金	△ 5,150万8千円(△ 12.3%)
引当金	919万7千円(4.4%)

(ウ) 企業債の状況は、次のとおりである。



なお、平成30年度に借り入れた企業債は、施設整備事業等に充当するためである。

(エ) 繰延収益の減少は、長期前受金332万8千円(0.6%)の減少による。

ウ 資本

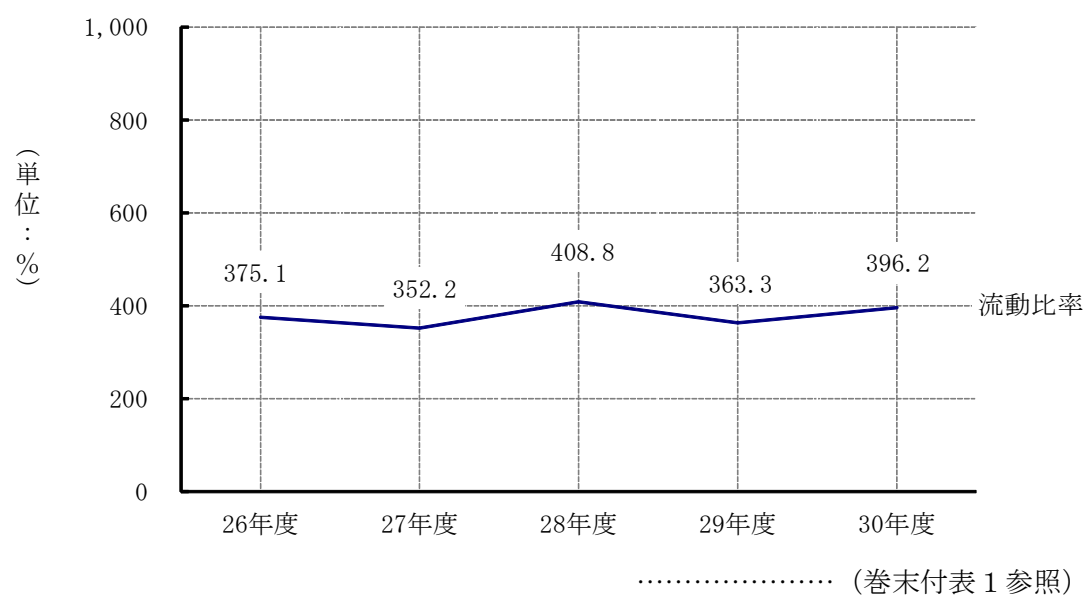
(ア) 資本金の増加は、一般会計出資金1億314万6千円の組入れによる。

(イ) 剰余金の減少は、欠損金1億9,314万7千円(7.0%)の増加による。

(ウ) 資本剰余金の増減はない。

(エ) 当年度未処理欠損金は、前年度繰越欠損金27億6,761万7千円に当年度純損失1億9,314万7千円を加えた結果、29億6,076万4千円となっている。

(2) 財務比率の推移



(注) 流動比率は、100%以上大きいほど良好である。

5 キャッシュ・フローの状況

(単位：千円)

項 目	30年度	29年度	増 減
1. 業務活動によるキャッシュ・フロー			
当年度純利益(△は純損失)	△ 193,147	△ 190,700	△ 2,447
減価償却費	357,248	327,294	29,954
固定資産除却損	5,740	6,717	△ 977
貸倒引当金の増減額(△は減少)	△ 996	△ 293	△ 703
退職給付引当金の増減額(△は減少)	113,316	58,936	54,380
賞与等引当金の増減額(△は減少)	9,197	135	9,062
長期前受金戻入額	△ 207,325	△ 199,795	△ 7,530
受取利息及び受取配当金	△ 328	△ 609	281
支払利息	18,191	23,438	△ 5,247
未収金の増減額(△は増加)	56,051	33,679	22,372
未払金の増減額(△は減少)	△ 49,745	11,415	△ 61,160
未払費用の増減額(△は減少)	△ 769	△ 203	△ 566
たな卸資産の増減額(△は増加)	△ 1,219	1,693	△ 2,912
長期前払消費税の増減額 (△は増加)	△ 10,059	△ 12,080	2,021
その他流動負債の増減額 (△は減少)	△ 4,019	9,072	△ 13,091
小計	92,136	68,699	23,437
利息及び配当金の受取額	208	568	△ 360
利息の支払額	△ 18,297	△ 23,543	5,246
業務活動によるキャッシュ・フロー	74,047	45,724	28,323
2. 投資活動によるキャッシュ・フロー			
有形固定資産の取得による支出	△ 348,354	△ 88,047	△ 260,307
無形固定資産の取得による支出	△ 16,133	△ 168,600	152,467
国庫補助金等による収入	1,055	-	1,055
一般会計又は他の特別会計からの繰入金による収入	202,942	180,579	22,363
投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 160,490	△ 76,068	△ 84,422
3. 財務活動によるキャッシュ・フロー			
建設改良費等の財源に充てるための企業債による収入	375,300	395,300	△ 20,000
建設改良費等の財源に充てるための企業債の償還による支出	△ 440,409	△ 435,916	△ 4,493
他会計からの出資による収入	103,146	149,912	△ 46,766
財務活動によるキャッシュ・フロー	38,037	109,296	△ 71,259
資金増減額 (△は減少)	△ 48,406	78,952	△ 127,358
資金期首残高	3,368,428	3,289,476	78,952
資金期末残高	3,320,022	3,368,428	△ 48,406

6 一般会計からの繰入状況

(単位：千円・%)

区 分	30年度	29年度	増 減	
			金 額	比 率
収益的収入に係る繰入金	514,560	454,601	59,959	13.2
医業収益	200,606	198,689	1,917	1.0
負担金	200,606	198,689	1,917	1.0
救急医療体制確保対策分	162,488	159,164	3,324	2.1
集団検診等保健衛生行政経費	38,118	39,525	△ 1,407	△ 3.6
医業外収益	313,954	255,912	58,042	22.7
補助金	313,954	255,912	58,042	22.7
結核病床運営不採算分	125,530	61,375	64,155	104.5
医師及び看護師等の研究研修経費(1/2)	9,413	9,570	△ 157	△ 1.6
企業債利息(1/2、2/3)	11,784	15,297	△ 3,513	△ 23.0
職員の基礎年金拠出金に係る公的負担経費	82,261	80,132	2,129	2.7
共済追加費用の負担経費	18,082	19,777	△ 1,695	△ 8.6
感染症病棟運営収支不足分(10/10、1/3)	32,523	32,939	△ 416	△ 1.3
リハビリテーション医療の経費	12,967	12,381	586	4.7
院内保育所運営経費	3,520	6,224	△ 2,704	△ 43.4
職員の児童手当に要する経費	12,601	12,886	△ 285	△ 2.2
高度医療機器購入による病院負担増分(1/2)	222	231	△ 9	△ 3.9
子育て支援に要する経費	34	23	11	47.8
小児医療に要する経費	5,017	5,077	△ 60	△ 1.2
資本的収入に係る繰入金	292,812	330,491	△ 37,679	△ 11.4
出資金	103,146	149,912	△ 46,766	△ 31.2
病院建設等企業債元金償還費 (感染症病棟分10/10、その他1/2、2/3)	103,146	149,912	△ 46,766	△ 31.2
補助金	189,666	180,579	9,087	5.0
医療機器購入費に係る企業債元金償還費 (高度医療機器分10/10、その他1/2)	189,666	180,579	9,087	5.0
合 計	807,372	785,092	22,280	2.8

7 資 料

(1) 業 務 実 績 表

項 目	単位	30 年 度	29 年 度	増 減	
病 床 数	床	311	311	0	
病 床	一 般 病 床	280	280	0	
	結 核 病 床	25	25	0	
	感 染 症 病 床	6	6	0	
患 者 数	人	189,957	192,076	△ 2,119	
外 来 患 者	内 科	51,893	52,070	△ 177	
	外 科	3,313	3,128	185	
	整 形 外 科	11,482	12,543	△ 1,061	
	脳 神 経 外 科	4,628	4,893	△ 265	
	眼 科	8,487	8,447	40	
	小 児 科	3,483	3,316	167	
	産 婦 人 科	7,901	7,423	478	
	耳 鼻 い ん こ う 科	4,106	3,635	471	
	皮 膚 科	3,044	3,361	△ 317	
	泌 尿 器 科	7,409	7,237	172	
	麻 酔 科	2,075	2,241	△ 166	
	計 (A)	107,821	108,294	△ 473	
	一 日 平 均 患 者 数	441.9	443.8	△ 1.9	
入 院 患 者	内 科	54,804	54,460	344	
	外 科	5,309	4,376	933	
	整 形 外 科	10,923	13,334	△ 2,411	
	脳 神 経 外 科	5,826	6,167	△ 341	
	眼 科	833	868	△ 35	
	小 児 科	170	244	△ 74	
	産 婦 人 科	2,657	2,867	△ 210	
	耳 鼻 い ん こ う 科	0	0	0	
	皮 膚 科	70	122	△ 52	
	泌 尿 器 科	1,544	1,344	200	
	麻 酔 科	0	0	0	
	計 (B)	82,136	83,782	△ 1,646	
	一 般 病 床 患 者 数	78,897	80,671	△ 1,774	
結 核 病 床 患 者 数	3,239	3,111	128		
感 染 症 病 床 患 者 数	0	0	0		
一 日 平 均 患 者 数	225.0	229.5	△ 4.5		
一 般 病 床 一 日 平 均 患 者 数	216.2	221.0	△ 4.8		
一 般 病 床 利 用 率 (ドック8床除く)	%	79.5	81.3	△ 1.8	
外 来 入 院 患 者 比 率 (A)/(B)	131.3	129.3	2.0		
人 間 ドック 受 診 者 数	人	1,150	1,151	△ 1	
職 員 数	(医 療 職)	医 師	34 (11)	35 (9)	△ 1 (2)
		医 療 技 術 職 員	44 (10)	44 (8)	0 (2)
		看 護 師	211 (35)	215 (31)	△ 4 (4)
		助 産 師	3	3	0 (0)
		准 看 護 師	0	0	0 (0)
	主 事	22 (14)	22 (14)	0 (0)	
	技 師	1	1	0 (0)	
計	315 (70)	320 (62)	△ 5 (8)		

- (注) 1 職員は、すべて損益勘定支弁職員である。
2 職員数の()は、非常勤職員で外書きである。

(2) 近隣病院比較表

区 分		金 沢 市		近隣7病院	小 松 市 市 民 病 院		
		市 立 病 院		平 均			
		30年度	29年度	29年度			
全	病 床 数	床	311	311	430	344	
う	ち 一 般 病 床 数	床	280	280	378	300	
業 務 概 況	一 般 病 床 利 用 率 (ドック8床除く利用率)	%	77.2 (79.5)	78.9 (81.3)	82.8	86.3	
	一 般 病 床 平 均 在 院 日 数	日	15.3	15.5	13.5	13.1	
	1日平均患者数	外 来	人	441.9	444	859	779
		入 院	人	225.0	230	333	276
外 来 入 院 患 者 比 率	%	131.3	129.3	173.4	188.7		
経 営 状 況	総 収 支 比 率	%	96.6	96.6	100.7	100.6	
	医 業 収 支 比 率	%	89.2	90.9	96.6	95.4	
	他会計繰入金対経常収益比率	%	9.5	8.3	7.2	4.0	
	外 来 患 者 1 人 1 日 当 たり 外 来 収 入	円	11,540	11,837	13,029	12,816	
	[上 記 の う ち 投 薬 料 を 除 いた 外 来 収 入]	円	(11,416)	(11,536)	(12,210)	(12,300)	
	入 院 患 者 1 人 1 日 当 たり 入 院 収 入	円	39,414	39,784	49,459	49,518	
	医 業 収 益 に 対 する	職 員 給 与 費	%	66.2	63.9	53.3	54.7
診 療 材 料 費		%	16.7	18.4	22.9	26.1	
当 年 度 未 処 分 利 益 剰 余 金	千円	△2,960,764	△2,767,617	△2,933,518	△2,417,069		
職 員	100 床 当 たり 職 員 数	人	116.1	117.3	154.2	161.3	
	職 員 1 人 当 たり	医 業 収 益	千円	15,406	15,593	14,202	14,480
		医 業 費 用	千円	17,278	17,158	14,667	15,182

(注) 1 平成29年度の数値は、地方公営企業年鑑(H29.4.1～H30.3.31 総務省自治財政局編)
2 なお、近隣病院の選定に当たっては、石川県及び富山県の300床以上の市立・公立

白山市 公立松任石川 中央病院	七尾市 公立能登 総合病院	富山市 市民病院	高岡市 市民病院	黒部市 市民病院	砺波市 砺波総合病院
305	434	595	401	414	514
275	330	539	333	405	461
94.8	88.0	68.2	82.8	80.4	79.3
12.5	16.5	13.6	12.7	12.9	13.5
744	892	1,035	814	836	913
285	345	397	306	326	395
174.9	172.7	174.6	177.6	171.2	154.3
102.3	104.5	97.6	101.0	96.5	102.6
99.4	97.1	93.0	96.2	97.1	98.2
6.7	7.4	8.2	10.2	5.4	8.7
14,308	12,138	10,452	10,855	17,148	13,483
(14,043)	(11,080)	(10,050)	(10,481)	(14,577)	(12,938)
55,487	41,178	53,955	51,073	48,258	46,742
43.1	60.3	60.6	52.6	48.6	53.1
20.7	19.1	22.5	23.7	25.7	22.3
1,821,877	464,948	△4,436,700	△11,308,611	△1,087,230	△3,571,842
171.3	142.5	155.9	125.7	167.0	155.9
17,301	13,313	11,251	12,593	14,448	16,027
17,397	13,711	12,092	13,086	14,884	16,315

に基づき作成した。
病院を対象とした。